



プづくりを始めた園もあります。

つくる段階での園児のかかわり方としては、例えば、園児が使える道具を用意すれば、土を掘ったり運んだり、種をまいたり、草を植えたりすることを夢中になって行ったりします（写真②）。

管理も、園児は遊びの一環として行うことが可能です。自分の背丈よりも大きくなった外来植物セイタカアワダチソウ抜きが楽しくてしょうがないという園児もいました。

自然の見どころの発信も、園児に気に入ったことを書いてもらい、ラミネート加工してその場所に設置すれば、他の園児や、迎えにきた保護者にも気づいてもらうことができます。

保育者の促し次第で、園児は様々なものへ興味を広げ、園児なりに工夫し、行動していきます。



写真② 富田林市立錦郡幼稚園（大阪府）

## 環境団体と一緒に

前回、園庭ビオトープをつくるポイントとして、地域の自然に似せることだと説明しました。でも、地域の自然についてわからないことも多いはず。そうした時には、自然に詳しい方々を仲間に加えると活動が進めやすくなります。

例えば、雑木林や湿地など地域の自然環境の保全を進めている市民団体をインターネットなどで探してみましょう。そして、その団体が催す保全管理や観察会などに参加し、関係づくりをしてみたいかがでしょうか。園庭を地域の自然に似せる助言をもらえたり、生やすとよい植物なども教えてもらえるかもしれません。

● 団体が地域で見つからなければ、園に最も近い大きな河川の上下流、いわゆる同じ流域の中から探してみましょう。なぜ同じ流域か？それは、生きものをもらい受けたりする時にその遺伝子に大きな相違が見られないからです。今や、生きものの導入には、生きものの地域における遺伝的特性を汚染しないよう、遺伝子まで気を遣わなければならない時代になりました。

● 園庭ビオトープを大規模につくるのであれば、日本生態系協会が認証する「ビオトープ管理士」に相談することをお奨めします。日本ビオトープ管理士のHPから近隣のビオトープ管理士を検索することができます。

## 最後に

● この連載の締めくくりに、オーストラリアで訪問した園の保育者の言葉を紹介します。

● その保育者は「園は地域において自然や文化、伝統が残るサンクチュアリだ」と表現しました。その意図を聞くと、「地域から自然や文化、伝統が急速に消えつつある中で、せめて園でそうした場や機会を設けていかないと、子どもたちは、地域の本当のよさや特徴を体験できないまま大人になってしまう。私は園児にこの地域でくらすことの誇りをもってもらいたい。だから、園庭ビオトープをつくりました」と自信を持って述べていました。

● 日本生態系協会では、全国において、自然が持つ保育力が積極的に生かされるよう、環境の専門組織としてこれからも保育の皆様を支援していきます。

## （ご案内）



● 日本生態系協会が催す「全国学校・園庭ビオトープコンクール2019」の募集が4月から始まります。

● 詳しくは、日本生態系協会のHPをご覧ください。

● <http://www.ecosys.or.jp/>



# 自然が持つ 保育力を 生かす

6

## みんなで育てるビオトープ

田邊龍太

Ryota TANABE

(公財) 日本生態系協会教育研究センター長

### 保護者や周辺住民と一緒に

「保護者や周辺住民に、ビオトープを生かした保育の大切さの理解を促したい。管理や活用にもかかわってもらいたい。その時の方法は？」

昨年10月から始まりました本連載の最終話にあたり、この質問を取りあげます。

園庭ビオトープの維持管理や活用は、多忙を極める保育者だけで抱えずに、保護者や周辺住民と一緒に楽しみながら取り組むことができれば、継続性や発展性が高まります。

例えば、保護者などの関心を高めるために、「春です。池でメダカの赤ちゃんがたくさん泳いでいます」など自然の見どころ、今の園児のお気に入りの遊びなどを、園の入口や道行く人が見えるようフェンスに設置してもよいでしょう。あるいは、ビオトープを通じた園児の作品も積極的に展示するといったこともできます。

また、園庭ビオトープで保護者なども参加し楽しむ機会を増やしていきたいものです。運動会の代わりに、園庭ビオトープで木登りをしたり、「この葉っぱを探せ」など探しものを親子で競ったりしている園もあります(写真①)。端午の節句に池の菖蒲を摘んで足湯をしたり、秋の草花を添えてお団子を供え名月を愛でたり、園庭ビオトープにある自然の素材で、地域の文化や伝統を体験できることを考えてみてもよいでしょう。そうした時に、指導者として地域のお年寄りを招くなどすれば、園庭ビオトープ

を通じて様々な人がつながっていきます。

さらに、こうした情報発信や催しを通じて保護者や周辺住民の関心が高まったら、ビオトープの維持管理を担う月例日を設けてみたり、ビオトープを育む会などの組織化を相談してみてもいいでしょう。



写真① 枚田みのり保育園(兵庫県)

### 園児と一緒に

園児も、園庭ビオトープの計画やつくる段階、管理の段階でかかわることが可能です。

当協会が隔年で催す「全国学校・園庭ビオトープコンクール」に参加した園の中には、「園庭でカマキリと会いたい」「飼っているオタマジャクシを、水槽ではなく、もっとくらしやすいところに移してあげたい」など、園児の希望により園庭ビオトープづくりが始まった事例がありました。また、海外では、保育者が園児に「園庭でどんな遊びができると楽しい？」と相談したところ、虫探しや基地づくりなど自然に絡む多くの遊びが出され、園庭ビオトープ